

**平成30年度研究拠点形成事業
(B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) 実施計画書**

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	聖路加国際大学
タンザニア側拠点機関:	国立ムヒンビリ健康科学大学
インドネシア拠点機関:	国立イスラム大学
ミャンマー拠点機関:	マンダレー看護大学
ラオス拠点機関:	ラオス保健科学大学

2. 研究交流課題名

(和文): 妊娠・分娩・新生児ケアの質改善を軸とした看護・助産リーダーの育成

(英文): Development of Nursing and Midwifery Program to Train Leaders and Promote Quality in Antenatal, Intrapartum and Neonatal care

研究交流課題に係るウェブサイト: [http:// www.slcu.ac.jp/aamrc/](http://www.slcu.ac.jp/aamrc/)

3. 採択期間

平成30年4月1日 ～ 平成33年3月31日

(1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 聖路加国際大学

実施組織代表者(所属部局・職名・氏名): 学長・福井次矢

コーディネーター(所属部局・職名・氏名): 大学院看護学研究科・教授・堀内成子

協力機関: 長崎大学

事務組織: 聖路加国際大学事務局

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名: タンザニア

拠点機関: (英文) Muhimbili University of Health and Allied Sciences (MUHAS)

(和文) ムヒンビリ健康科学大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名):

(英文) School of Nursing・Senior Lecturer・Sebalda LESHABARI

協力機関: (英文) Tanzania Midwives Association、Muhimbili National Hospital

(和文) タンザニア助産協会、ムヒンビリ国立病院

(2) 国名：インドネシア

拠点機関：(英文) Universitas Islam Negeri (UIN) Syarif Hidayatullah

(和文) 国立イスラム大学

コーディネーター (所属部局・職名・氏名)：

(英文) School of Nursing・Professor・Yenita AGUS

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(3) 国名：ミャンマー

拠点機関：(英文) University of Nursing, Mandalay

(和文) マンダレー看護大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：

(英文) School of Nursing・Rector・KHIN THET WAI

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(2) 国名：ラオス

拠点機関：(英文) University of Health Sciences in Lao P.D.R.

(和文) ラオス保健科学大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)：

(英文) School of Nursing・Dean Deputy・Souksavanh PHANPASEUTH

協力機関：(英文) Ministry of Health, Mahosot Hospital

(和文) 保健省、マホソット病院

5. 全期間を通じた研究交流目標

1. アジア・アフリカの母子保健の質向上を可能にする“持続可能な”看護・助産リーダー育成モデルの開発

本事業の過去の取組において、タンザニア国内初の助産学修士課程の開設、現地助産師の教育ニーズ把握 (Horiuchi, et al., 2016)、アフリカ臨床教育モデルのアジア移転、日本・タンザニア・インドネシアの研究者と世界保健機構 (WHO) の協働セミナー等を実現し、各国の母子保健課題の解決に貢献してきた。本研究交流では、タンザニア・インドネシアでの実績を、母子保健課題が多く残る東南アジア圏のミャンマー、ラオスに拡大し、グローバルな看護・助産リーダーの育成を通じた持続可能な育成モデルを開発することを目標とする。

2. 国際保健人材強化における日本のプレゼンスを示す助産研究拠点のネットワークの拡大

安倍首相が The Lancet 誌で日本の知識と経験を活用した国際保健分野での人材育成に言及するなど (Abe, 2015)、国際保健は日本外交上の重要な戦略である。本事業では、日本主導

の人材育成強化のプレゼンスを示すため、タンザニアからインドネシアに展開した助産研究拠点をミャンマー、ラオスに拡大、妊娠・分娩・新生児ケアの質改善に取り組む。臨床・教育・研究が循環するエビデンスベースの実践的モデルを確立した本学の知見を活かしつつ、プライマリヘルスケアを支える看護基礎教育と専門職の現任教育の長期的視点を持つ日本型モデルを世界に発信する拠点を形成する。

3. 母子保健関連目標の達成に貢献する教育プログラムのアクションリサーチと評価

ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）で目標達成に至らなかった母子保健問題は、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）でも継続的なターゲットとして掲げられた。妊産婦・新生児の死亡は、適時に適切なケアを行う事により予防可能な死が大半で、専門的技能を持った介助者（Skilled Birth Attendant: SBA）の専門能力、労働環境改善へのアプローチが焦点となる。我々は、タンザニアにおいて妊婦健診、施設内分娩の問題点を挙げ、労働環境の改善の糸口を明らかにした実績を持つ（Shimoda,2016）。本研究交流では、国や地域毎に役割が異なる助産師の実践能力をグローバルに強化する仕組み作りに取り組み、今期3年間で妊娠・分娩・新生児期のケア改善のためのアクションリサーチと教育評価を実施し、妊産婦死亡、新生児死亡の減少への寄与を目指す。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成30年度から開始のため、なし。

7. 平成30年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

日本側研究拠点機関は、平成23年度にアジア・アフリカ助産研究センターを設立し、平成29年度に至るまでの7年間、タンザニアと研究交流を続け、インドネシアに関しては平成27年度から3年間継続している。さらに本年度からは、タンザニア・インドネシアでの実績を、母子保健課題が多く残る東南アジア圏のミャンマー、ラオスに拡大していく。

タンザニアとはすでに構築されている関係性を継続させ、これまでの研究交流結果を共有し、実践的なケアにつなげていくため、人間的な出産および出産中の軽蔑と虐待に関するセミナー（S-1）を実施する。また、R-1の実施に向けて、相手国側機関と今年度の計画についてコミュニケーションを図り、研究交流計画について共に計画を立案する。

インドネシアにおいては、前年度までの数年間で研究交流関係の構築は十分に実施できしており、今年度は研究結果および評価の公表とフィードバックを主に実施していく（R-2）。

ミャンマーにおいては、初年度となる。相手国側からの招聘および日本国側からの訪問を行い、信頼関係および研究協力体制を整える。

ラオスに関しても、初年度となる。そのため、まずは相手国からの招聘を実施したうえで、共同研究をするうえで重要となる研究法についてのセミナー（S-2）を実施し、その中で研究交流の計画を具体的に立てていくことができるよう研究協力体制を整える。

<学術的観点>

タンザニアにおいてはこれまでの研究の成果を公表・プログラム評価のフィードバックが主となる。R-1 では、妊娠期（妊婦に向けた出産準備教育）、分娩期（母子を尊重したケア）、産褥新生児期（早期新生児ケア・完全母乳育児推進）についての研究を実施する。

インドネシアに関しては、これまで卒後教育が十分でない環境の中、助産師に向けて早期母子接触（Skin to Skin Care）に関するトレーニングプログラムの開発とそのプログラムの実施を2度行った。平成30年度は、R-2として相手国参加研究者とともにプログラム評価を実施し、インドネシアでの継続性とリーダー育成の観点からプログラムの改善と発展につなげていく。

ミャンマーに関しては、初めての共同研究となる。R-3として看護・助産教員の学習ニーズを調査し、次年度以降の研究交流およびセミナー開催のための具体的な項目の抽出を目指す。

ラオスに関しても、初めての共同研究となる。そのため、研究協力体制の構築および調整の後に、R-4として看護・助産教員の学習ニーズを調査およびセミナー開催のための具体的な項目の抽出を目指す。さらに国内で看護系大学院が存在しないラオスにおいては、参加研究者の教育および研究力を向上させるためのセミナーを開催する（S-2）。

<若手研究者育成>

R-1、R-3においては、日本側拠点の大学院生の研究参加を促す予定である。また、研究のみならずセミナー開催時には若手研究者や国際協働に貢献する意思のある大学院生（修士・博士）を同行させ、相手国研究者、学生との交流を図ることで、国際協働の基礎となる相互理解力を深める。インドネシア拠点機関には、本学の博士後期課程を修了した教員が3名いるため、彼らに本事業への参画と研究の機会を与える。ラオスに関しては、まずは相手国機関の教員が研究の基礎となる力を養うことができるように、S-2の実施を通して研究者育成に努める。さらに、初年度であるミャンマー・ラオスからは若手研究者養成の主力となる拠点機関や協力機関の管理者レベルを日本へ招聘し、日本の看護・助産教育機関や周産期医療機関の視察や看護・助産教員らとの意見交換の機会を提供する。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

タンザニア、インドネシア、ミャンマー、ラオスでは依然として周産期における母子の死亡率が高く、改善率も低い。母子保健に関する介入の多くは母子の救命に関する課題に重きがおかれていたが、ケアの質そのものも同様に重要視する必要性が報告されている。しかし、途上国ではこのようなケアの質改善を推進するための継続教育システムが整っていない。そのような中、助産ケアの最新知識・技術の不足などの改善、より効果の高い教育介入が求められている。そのためには、助産師が知識や技術を固める基礎教育課程や、アップデートする継続教育の充実が必須である。本研究交流課題では、妊娠・分娩・新生児期のケアの質を改善することに不可欠な看護・助産職への継続教育を実施し評価し、研

究と臨床と教育を循環させていく。そのことで、エビデンスに基づいたケア、人を尊重し、女性と家族の意思決定を促進する人間的な出産を両国に展開し、最終的にケアを受ける女性と家族に裨益することを目指している。従って本事業による社会貢献、また独自の目的として、臨床への還元を掲げ、今年度の目標として、タンザニアでは R-1 と S-1 による臨床助産師への教育の充実を図る。また、インドネシアでは R-2 としてより実現性と継続性の高い教育を検討し、R-3, R-4 により、ラオスでは平成 30 年度に、ミャンマーでは次年度以降に臨床教育のニーズ調査を実施する。

8. 平成30年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成30年度	研究終了年度	平成32年度
共同研究課題名	<p>(和文) タンザニアにおける妊娠・分娩・産褥新生児期を通じた安全で母子を尊重した質の高い助産ケアの向上</p> <p>(英文) Improvement of Safe, Respectful, and Quality Midwifery Care during Pregnancy, Childbirth, and Postnatal Periods in Tanzania</p>				
日本側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1</p> <p>(英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke's International University, College of Nursing, Professor・1-1</p>				
相手国側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(英文) Sebalda LESHABARI, Muhimbili University of Health and Allied Sciences, School of Nursing, Senior Lecturer・2-1</p>				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>タンザニアのムヒンビリ 健康科学大学とともに、妊娠期（妊婦に向けた出産準備教育）、分娩期（母子を尊重したケア）、産褥新生児期（早期新生児ケア・完全母乳育児推進）において、29年度までに実態調査およびケアの向上を目的とした教育介入を実施している。</p> <p>今年度は研究成果を国際学会（7月ケニア）および国際学術誌へ公表する。実態調査結果を現地の助産師・看護師へフィードバック（8月予定）する、同時に実施した介入について現地での定着度を評価することで、今後のケアの持続性を検討する。さらに、新たに分娩期における早期母子接触について、その実態調査（5月-7月）を開始する。これらの研究交流の状況確認や共有は、e-mail や skype を頻繁に使用して実施していく。また、研究交流に関しては1年を通してタンザニア側6名と日本側6名が中心となって交流を継続していく。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>① 実態調査の結果を公表することで、タンザニア政府、さらには周辺国への保健分野における政策提言への示唆および情報提供となることが期待される。</p> <p>② 調査対象となった施設のタンザニア助産師へ研究結果をフィードバックすることにより、助産師が自らのケアを振り返る機会となる。また今後のケアの質向上についてその実現・持続可能性を検討する機会の提供ができる。</p> <p>③ 教育介入（出産準備教育・早期新生児ケア）を実施した施設において、実践を継続して評価することにより、その持続可能性の検討および新たに取り組むべき課題の抽出が可能となる。</p> <p>④ これまで培った研究交流を継続させることで、より強固な研究交流環境の基盤を形成することが可能となる。</p>				

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 30 年度	研究終了年度	平成 32 年度
共同研究課題名	<p>(和文) インドネシアの継続性を重視した実現可能な現任教育プログラムの開発</p> <p>(英文) Development of sustainable and feasible in-service training in Indonesia</p>				
日本側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1</p> <p>(英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke's International University, College of Nursing, Professor・1-1</p>				
相手国側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(英文) Yenita AGUS, Universitas Islam Negeri (UIN) Syarif Hidayatullah, School of Nursing, Professor・3-1</p>				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>インドネシアにおいては、前年度までに助産師向けに早期必須新生児ケア (Eaerly Essential Newborn Care) に関するパイロット版トレーニングプログラムを開発し、平成 29 年 1 月と 10 月に実際にセミナーを開催した。卒後教育が十分に行われていない中で、臨床現場に即した教育プログラムを開発し、実施・評価を行うことが課題として求められている。今年度はその評価を相手国研究者とともに具体的に実施し、実現可能で継続性のある現任教育プログラムとして定着していくことができるかを検討することで来年度以降の研究計画につなげていく。さらに現地国際機関と交流・連携していくことにより、現場での混乱を来さない教育プログラムの統一も目指す。これらの研究交流の状況確認や共有は、日本国と相手国参加研究者との間で e-mail や skype を頻繁に使用して実施していく。また、研究交流に関しては 1 年を通してインドネシア側 7 名と日本側 5 名とが中心となって研究交流を継続していく。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>① 実施済のプログラムを評価することで、現場に即した課題と改善点を見出すことができ、より相手国の状況に即したプログラムの開発につながる。</p> <p>② インドネシア助産師とともにプログラムの評価をすることで、相手国にプログラムリーダーを育成・定着させていくことができる。</p> <p>③ 両国の研究機関だけでなく、同様のプログラムを実施している現地国際機関との連携をとることで、一貫性のある現任教育の普及につながる。</p> <p>④ これまで培った研究交流を継続させることで、より強固な研究交流環境の基盤を形成することが可能となる。</p>				

整理番号	R-3	研究開始年度	平成 30 年度	研究終了年度	平成 32 年度
共同研究課題名	<p>(和文) ミャンマーの看護大学における看護教員と看護学生が認識する学習上の課題</p> <p>(英文) The difficulties and challenges of learning in university of nursing, Myanmar among faculty members and students</p>				
日本側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1</p> <p>(英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke's International University, College of Nursing, Professor, 1-1</p>				
相手国側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(英文) KHIN THET WAI University of Nursing, Mandalay, Pro-Rector, Rector, 4-1</p>				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>ミャンマーの看護基礎教育において、看護教員が認識する課題と看護学生が認識する学習上の課題を調査し、教員 - 学生間のギャップの有無・程度や、学習者主体の教育方法の導入可能性を明らかにする。ミャンマーでは、初等教育から暗記中心の教育が行われているが、2017年度より学習者の思考力を養成する教育方法に転換を始めている。30年度は、教育方法の転換期を迎えているミャンマーの看護の高等教育の現状をまず明らかにする。そして、次年度に実施する学習者主体の教育手法に関する研修の基盤となるよう、教員および学生の双方の現状認識やニーズを調査する。研究交流の状況確認や共有は、日本国と相手国参加研究者との間で e-mail や skype を頻繁に使用して実施していく。また、研究交流に関しては1年を通してミャンマー側6名と日本側4名とが中心となって研究交流を継続していく。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>① ミャンマーの看護大学で基礎教育に従事する看護教員が認識している看護教育の課題と教育方法の学習ニーズを可視化する。</p> <p>② ミャンマーの看護大学の学生が認識する学習上の課題を把握する。</p> <p>③ 上記①と②から教員と学生間で、学習上の課題の認識にギャップがあるのか、どの程度のギャップなのかを明らかにする。</p> <p>④ 調査結果が、次年度以降の教育方法に関する研修の基礎資料となる。</p>				

整理番号	R-4	研究開始年度	平成 30 年度	研究終了年度	平成 32 年度
共同研究課題名	<p>(和文) ラオスの Higher Diploma 看護学生のコンピテンシー評価に関する課題</p> <p>(英文) Educational Difficulties and Needs of Nursing Educators for Effective Competency Assessment of Higher Diploma Nursing Students in Lao PDR</p>				
日本側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1</p> <p>(英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke's International University, College of Nursing, Professor・1-1</p>				
相手国側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	<p>(英文) Souksavanh PHANPASEUTH, University of Health Sciences (FON/UHC), Faculty of Nursing, Deputy Dean, 5-1</p>				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>ラオスの母子保健の担い手でもある看護師の基礎教育は、首都の国立保健科学大学看護学部にて4年課程の Bachelor と3年課程の Higher Diploma、地方の短期大学で3年課程の Higher Diploma が養成されている。2.5年課程の Technical Diploma も地方の看護専門学校で養成されているが、今後は3年課程の Higher Diploma への移行が検討されており、ラオスの看護基礎教育の主流は3年課程の Higher Diploma となる見込みである。</p> <p>3年課程の Higher Diploma は、2013年に策定された保健省令「National Competencies for Licensed Nurses in Lao PDR」に基づきカリキュラムとシラバスの改定が2014年に行われ、2015年より新カリキュラムによる教育が開始された。学生の卒業時の到達目標は、National Competencies for Licensed Nurses にある9つのコンピテンシーの獲得が掲げられているが、学生のコンピテンシーの評価に関する規定等の情報は無い。</p> <p>このため、共同研究は、ラオス側代表者が所属するラオス国立保健科学大学看護学部と Higher Diploma 看護課程の学生のコンピテンシー評価に関する課題解決を目指して推進していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラオスの Higher Diploma 看護学生の評価が現在どのように実施されているかを関連する資料の収集と関係者へのインタビューによりまとめ、基礎資料とする。 2. 看護学生の評価に関する基礎資料を参考に、Higher Diploma 新カリキュラム課程の看護学生のコンピテンシーの評価、特に9つのコンピテンシーのうちの Analytical Thinking に焦点をあてて、現在はどのように学生のコンピテンシー修得について評価・モニタリングされているのか、評価における課題は何かについて看護教員にインタビュー調査を行う。 				

	<p>3. ラオス側関係者（拠点機関のラオス国立保健科学大学看護学部、協力機関のラオス保健省研究研修局ならびにマホソット病院から 3 名程度）を日本に招聘し、日本の看護教育（学生評価も含む）に関する研修視察と日本側関係者との意見交換を行う。約 1 週間の滞在期間を予定する。</p> <p>4. 聖路加国際大学の教員を中心に約 5 名がラオスへ渡航し、拠点機関の看護教員や協力機関の看護管理者や臨床教員、看護行政官を対象として、看護教育と研究の基礎に関する 2 日間程度のセミナー（S-2）をラオス側と日本側との共同により開催する。参加者は 50 名程度を予定する。</p> <p>上記活動から抽出されたラオスの看護学生のコンピテンシー評価に関する研究課題を次の計画に繋げる。</p>
<p>30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果</p>	<p>① 調査及びセミナーの開催を通じて、研究者交流が活発となり、実態や課題の可視化が進む。</p> <p>② ラオスの看護教育ならびに研究活動の向上を目指す国際共同研究拠点形成のための共通認識と交流が醸成される。</p>

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「タンザニアにおける実現可能な女性を尊重する分娩ケア」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Feasible respectful midwifery care during childbirth in Tanzania“
開催期間	平成 30 年 8 月 13 日 ～ 平成 30 年 8 月 15 日 (3 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) タンザニア、ダルエスサラーム、ムヒンビリ健康大学 (英文) Tanzania, Dar es Salaam, Muhimbili University of Health and Allied Sciences
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号	(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1 (英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke’s International University, College of Nursing, Professor・1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Sebalda LESHABARI, Muhimbili University of Health and Allied Sciences, School of Nursing, Senior Lecturer・2-1

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (タンザニア)	備考
日本	A.	6 / 18	
	B.	2	
タンザニア	A.	5 / 15	
	B.	20	
合計 〈人／人日〉	A.	11 / 33	
	B.	22	

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※人／人日は、2 / 14 (= 2人を7日間ずつ計14日間派遣する) のように記載してください。

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>平成 28 年度までの研究交流事業により、タンザニアの施設分娩において、女性への Disrespect and Abuse が実施されていることが明らかになった。また同時に、タンザニアの基礎および現任教育においては、女性を尊重したケアの視点について学ぶ機会はほとんどないことが問題として挙げられている。ムヒンビリ健康科学大学には日本側拠点と協働で作り上げた助産学修士課程が現在も進行しており、その中では「Women-centered care」の概念に基づく教育は開始したが現場への定着には至っていない。</p> <p>そのような背景の中、まず第一にタンザニアでの実態を報告すること、「Respectful care」および「Women-centered care」の概念を普及させることを開催目的とする。また、セミナーにおいて両国間の助産師、大学院生、教員が互いに教育と臨床の改善について考え、より実践可能なアクションプランとして捻出していくことで、プランの継続性を評価していくための人材交流の基盤を築くことも目的とする。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>① タンザニアの臨床助産師、大学院生、教員が、臨床での女性を尊重するケアの実態について理解を深めることができる。</p> <p>② タンザニアの臨床助産師、大学院生、教員が、女性を中心に考え尊重するケアについて、タンザニアで具体的に実践可能な方法を考え計画を立てることができる。</p> <p>③ 共同セミナーの実施により、両国間の相互理解と信頼関係が高まり、今後計画を実践していく中での人材交流の基盤を築くことができる。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>聖路加国際大学参加研究員、事務局 ムヒンビリ健康科学大学参加研究員、事務局</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 外国旅費、謝金、備品・消耗品購入費、その他経費</p>
	<p>タンザニア側</p>	<p>内容 タンザニア国内旅費</p>

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「ラオスの看護・助産教育のリーダーに研究・教育力をつける」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Building up research and teaching competencies among midwifery leaders in Lao P.D.R “
開催期間	平成 30 年 9 月 10 日 ～ 平成 30 年 9 月 12 日 (3 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) ラオス、ビエンチャン、ラオス保健科学大学 (英文) Lao P.D.R., Vientiane, University of Health Sciences in Lao P.D.R.
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号	(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1 (英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke’s International University, College of Nursing, Professor・1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号 (※日本以外での開催の場合)	(英文) Souksavanh PHANPASEUTH, University of Health Sciences in Lao P.D.R., School of Nursing, Dean Deputy, 5-1

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (ラオス)		備考
		A.	B.	
日本	A.	3/21		
	B.			
ラオス	A.	3/9		
	B.	50		
合計 〈人／人日〉	A.	6/30		
	B.	50		

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※人／人日は、2／14 (= 2人を7日間ずつ計14日間派遣する) のように記載してください。

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>ラオス保健科学大学は、国内で唯一の看護学部を保有する大学であり、大学院教育はまだ開始されていない。全国においても修士号以上の学位保有者は約 20 人強であり、いずれもタイでの学びの機会という限られた中で、国内では看護・助産学の分野における研究および教育の基盤が脆弱であることが課題となっている。同時に、ラオス政府は現場の看護・助産師のコンピテンシーを高めるための新たなカリキュラムを導入するなど教育改善に向けて動いており、現場からも研究・教育の質の向上のための学習の機会についてニーズが高まっている。</p> <p>そのような中、大学および臨床における教育・研究の改善に向け、まずは臨床教員や教員の研究・教育のコンピテンシーを高めることを目的として、本セミナーを開催する。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>① ラオスの臨床教員および教員が、看護・助産教育を改善する研究について理解することができる。</p> <p>② ラオスの臨床教員および教員が、より研究に基づいた教育実践とそれらを普及できるような方法について、現状を踏まえながら考える機会をもつことができる。</p> <p>③ 共同セミナーの実施により、両国間の相互理解と信頼関係が高まる。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>聖路加国際大学参加研究員、事務局 ラオス保健科学大学参加研究員、事務局</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 外国旅費、謝金、備品・消耗品購入費、その他経費</p>
	<p>ラオス側</p>	<p>内容 ラオス側国内旅費</p>

整理番号	S-3
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「助産師を目指す大学院生によるタンザニアでの経験報告」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Report of graduate students becoming midwives about their experience in Tanzania”
開催期間	平成 30 年 11 月 15 日 (1 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、東京、聖路加国際大学 (英文) Japan, Tokyo, St. Luke's International University
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号	(和文) 堀内成子・聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授・1-1 (英文) Shigeko HORIUCHI, St. Luke's International University, College of Nursing, Professor・1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (日本)		備考
		A.	B.	
日本	A.	8/8		
	B.	20		
合計 <人/人日>	A.	8/8		
	B.	20		

A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※人/人日は、2/14(=2人を7日間ずつ計14日間派遣する)のように記載してください。

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

セミナー開催の目的	平成 30 年 7 月に研究者交流として日本側参加研究者のタンザニア渡航を予定している。その成果を広く日本の助産学生、助産師、その他国際保健に興味のある一般市民に報告することを目的とする。
-----------	--

期待される成果	<p>① 日本の助産学生、助産師、その他国際保健に興味のある一般市民が、日本人研究者から見たタンザニアの現状について理解を深める。</p> <p>② 日本の助産学生、助産師、その他国際保健に興味のある一般市民と参加研究者の意見交換の機会となり、より多角的な視点や今後の研究交流事業をより効果的なものとする意見を出し合う。</p> <p>③ セミナーの実施により、大学院生を含めた参加研究者間の相互理解と信頼関係が高まる。</p>	
セミナーの運営組織	聖路加国際大学参加研究員、事務局	
開催経費 分担内容	日本側	内容 その他経費（会議費等）

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外の交流（日本国内の交流を含む）計画を記入してください。

所属・職名 派遣者氏名・研究者番号	派遣時期 (●月・●日間)	訪問先・内容
聖路加国際大学・教授・堀内成子・1-1	7月・7日間	訪問先：ムヒンビリ健康科学大学 内容：タンザニア側参加研究員との交流、併設病院の視察(都市部と農村部)を通し、本年度の共同研究の調整を行う。
聖路加国際大学・准教授・長松康子・1-3	7月・7日間	訪問先：ムヒンビリ健康科学大学 内容：タンザニア側参加研究員との交流、併設病院の視察(都市部と農村部)を通し、本年度の共同研究の調整を行う。
聖路加国際大学・助産師・小岩由依・1-15	7月・7日間	訪問先：ムヒンビリ健康科学大学 内容：タンザニア側参加研究員との交流、併設病院の視察(都市部と農村部)
聖路加国際大学・博士前期課程・プジョー恵美里・1-16	7月・7日間	訪問先：ムヒンビリ健康科学大学 内容：タンザニア側参加研究員との交流、併設病院の視察(都市部と農村部)
聖路加国際大学・博士前期課程・丸山佳穂・1-17	7月・7日間	訪問先：ムヒンビリ健康科学大学 内容：タンザニア側参加研究員との交流、併設病院の視察(都市部と農村部)
聖路加国際大学・博士前期課程・櫻井佐知子・1-18	7月・7日間	訪問先：ムヒンビリ健康科学大学 内容：タンザニア側参加研究員との交流、併設病院の視察(都市部と農村部)
聖路加国際大学・博士前期課程・白倉真理子・1-23	8月・7日間	訪問先：マンダレー看護大学 内容：ミャンマー側参加研究員との交流、併設病院の視察
マンダレー看護大学・学長・KHIN THET WAI・4-1	6月・7日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：大学の視察と看護教員/研究者との交流と教育や研究に関する意見交換
マンダレー看護大学・教授・HLA SHWE・4-3	6月・7日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：大学の視察と看護教員/研究者との交流と教育や研究に関する意見交換
マンダレー総合病院・看護部長・AYE AYE MOE・4-7	6月・7日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：大学の視察と看護教員/研究者との交流と教育や研究に関する意見交換

ラオス国立保健科学大学・看護学部副学部長・ Souksavanh PHANPASEUTH ・5-1	6月・7日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：大学の視察と看護教員/研究者との交流と教育や研究に関する意見交換
ラオス国立マホソット病院・副院長・ Aphone VISATHEP ・5-2	6月・7日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：大学の視察と看護教員/研究者との交流と教育や研究に関する意見交換
ラオス保健省研究研修局・副局長・ Sengmany KHAMBOUNHEUANG ・5-5	6月・7日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：大学の視察と看護教員/研究者との交流と教育や研究に関する意見交換
ストックホルム大学・准教授・ Magnus AXELSSON ・1-22	12月・10日間	訪問先：聖路加国際大学 内容：日本国参加者との交流を図り、研究論文公表における調整を実施する

※1名につき1行で記入してください。

9. 平成30年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	タンザニア 〈人/人日〉	インドネシア 〈人/人日〉	ミャンマー 〈人/人日〉	ラオス 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		3 / 25 (/)	/ (/)	3 / 21 (/)	3 / 21 (/)	3 / 25 (0 / 0)
タンザニア 〈人/人日〉	/ (/)		/ (/)	/ (/)	/ (/)	0 / 0 (0 / 0)
インドネシア 〈人/人日〉	/ (/)	/ (/)		/ (/)	/ (/)	0 / 0 (0 / 0)
ミャンマー 〈人/人日〉	3 / 21 (/)	/ (/)	/ (/)		/ (/)	3 / 21 (0 / 0)
ラオス 〈人/人日〉	3 / 21 (/)	/ (/)	/ (/)	/ (/)		3 / 21 (0 / 0)
合計 〈人/人日〉	6 / 42 (0 / 0)	3 / 25 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	3 / 21 (0 / 0)	3 / 21 (0 / 0)	3 / 25 (0 / 0)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

※相手国以外の国へ派遣する場合、国名に続けて(第三国)と記入してください。

9-2 国内での交流計画

	交流予定人数 〈人/人日〉
合計	20 / 20 (/)

10. 平成30年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	0	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	5,046,000	
	謝金	550,000	
	備品・消耗品 購入費	70,000	
	その他の経費	330,000	
	不課税取引・ 非課税取引に 係る消費税	404,000	
	計	6,400,000	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		640,000	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合計		7,040,000	